

2 体育・保健体育授業の改善・充実に向けた取組の方向性

北海道の体育・保健体育授業における現状と課題

※令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果より

【本道の現状】

- 体育の授業が楽しいと感じている児童生徒の割合が全国平均よりも高い。
- 小・中学校ともに、
 - ・前年度の調査結果を踏まえて授業等を工夫・改善
 - ・授業の冒頭に目標を提示
 - ・授業の最後に学習内容の振り返り
 - ・助け合ったり、役割を果たしたり、話し合ったりする活動を設定
 していると回答している学校の割合が全国平均よりも高い。

【本道の課題】

- 体育の授業に進んで取り組んでいる児童生徒の割合が全国平均よりも低い。
- 授業の中で、
 - ・目標(ねらい・めあて)を意識した学習
 - ・自分に合った練習方法を選択
 - ・友達と助け合ったり、教え合ったりする活動
 により、「できたり、分かたり」することがあると実感している児童生徒の割合が全国平均よりも低い。

これからの授業改善の方向性

児童生徒が「できる」、「わかる」を一層実感することができる授業の実現に向けて

- ・体力向上プラン等による現状把握及び授業改善の方向性の共有
- ・授業の中でICT機器を効果的に活用するなどして、自己の課題に応じて主体的に練習に取り組んだり、友達と関わりながら課題を解決したりする機会の意図的・計画的な設定

年度当初には…

- ・客観的なデータ（新体力テスト、児童生徒アンケート、学校評価、キャリアパスポートなど）を基にして、児童生徒の体力・運動能力の状況や授業改善の状況を把握
- ・「体力向上プラン」などを作成・活用し、全教職員で現状や課題、解決に向けた方向性を共有

「体力向上プラン」による検証改善サイクルの確立（※詳細は体育専科教員等配置校の実践概要参照）

年度当初における組織体制の整備

1 自校の児童生徒の体力・運動能力等に関わる現状

○ 体力・運動能力や運動に関する意識(内面)、生活習慣、運動習慣等に関わる現状

項目	H27	H28	H29	H30	RE	RE
体力	58.2	48.9	58.3	59.8	55.6	47.2
上体屈こし	47.6	39.9	55.5	46.6	53.8	54.3
長座体前屈	46.7	36.4	52.0	46.2	48.2	47.2
反復横跳び	45.8	40.0	52.8	50.1	48.6	46.1
20mシャトルラン	43.2	29.9	40.6	34.3	47.0	49.2
50m走	50.9	48.2	47.7	49.3	45.3	48.1
立ち幅跳び	49.7	49.9	51.3	56.2	49.4	55.5
ソフトボール投げ	52.6	45.9	46.3	55.6	42.6	56.6

【運動やスポーツが好きですか】

性別	全国	学校	全国	学校
男子	47.7%	67.7%	23.9%	51.9%
女子	51.1%	50.0%	13.2%	31.9%

【平日のスクリーンタイム】

性別	全国	学校	全国	学校
男子	18.9%	15.3%	21.2%	20.5%
女子	14.4%	13.6%	11.6%	17.0%

4 自校の児童生徒の体力・運動能力等に関わる目標達成状況

○ 体力・運動能力等に関わる目標の達成状況に対する評価指標

【評価方法】
・新体力テスト

【成果指標】
・全種目において全国比-2ポイント以内

【評価結果】
・中間評価(10月)及び最終評価(2月)の全国比-2ポイント以内であった種目は、全種目中85%であったことから、目標を達成できなかった。

○ 生活習慣、運動習慣に関する目標の達成状況に対する評価指標

【評価方法】
・運動習慣に関するアンケート調査

【成果指標】
・「運動が好き」の項目に対する児童の割合が0%、「体育の授業が好き」と回答する児童の割合が50%以上

【評価結果】
・中間評価(10月)及び最終評価(2月)の「運動が好き」と回答した児童の割合は成できなかった。「体育の授業が好き」と回答しない児童の割合は目標を達成できなかった。

1 新体力テストの全学年・全種目実施
・新体力テストの全学年・全種目実施に向けた体制整備及び実施計画作成をともに、児童が主体的に取り組むことができるよう、記録上位者の掲「パワーアップスタジアム」等の運動環境の整備を行う。

2 児童の体力・運動能力を育成する体育の授業改善
・校内研究の内容を踏まえた授業づくりを行うことにより、校内において全教で共通理解を図りながら、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善取組を組織的に推進する。

3 ICTの活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る
・ICTの効果的な活用による協働的な課題解決場面を意図的に設計し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る。

6 次年度に向けた具体的な取組の改善・充実

- ・「体育が好き」と回答する児童の割合が増えるよう、主体的・協働的な授業の実施
- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る。ICT

○ 生活習慣、運動習慣に関わる課題

- ・「運動やスポーツが嫌い」と回答する児童の割合は6.7%であり、全国平均を下回っている。
- ・男女ともに、平日のスクリーンタイム時間が長い児童の割合が多い。

○ 生活習慣、運動習慣に関わる目標

- ・運動習慣に関するアンケート調査を全学年において実施し、家庭と連携した取組を推進する。
- ・スクリーンタイムを減少させ、生活習慣の改善を図る。

○ 体力・運動能力等に関する課題

- ・男女ともに、体力、長座体前屈、反復横跳び、20mシャトルラン及び50m走において、全国平均を下回っている。
- ・体育の授業において、自分の動きの質の向上を感じている児童の割合が少ない。

○ 体力・運動能力等に関する目標

- ・新体力テストを全学年・全種目実施することにより、分析と授業改善を図る。
- ・児童が自己実感を感得できるよう、目標の設定と個人へのフィードバックを行う。

○ 体力・運動能力等に関する現状から分析した課題

- ・様々なデータに基づき、自校の課題を分析し、課題解決に向けた取組目標を明確化する。

○ 各学校の課題や目標に応じた取組(一校一実践)を設定・推進

○ 取組の進捗状況の評価時期や評価方法を具体的に設定・実施・取組改善

○ 性取組の明文化

○ え次年度の方向性

○ と新たな取組

○ 年間の取組



